

※一般教養の出題は除く

1 次の文章は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)(令和3年1月26日中央教育審議会)からの抜粋である。文章中の空欄(a)～(e)に当てはまる語句を正しく組み合わせているものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

- 全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を(a)しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の(b)」が必要である。
- 基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・(c)の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が(d)となるよう(a)する「学習の(e)」も必要である。

	a	b	c	d	e
ア	調整	個別化	意志・意欲	最善	適正化
イ	選択	個性化	意志・意欲	最善	個別化
ウ	調整	個別化	キャリア形成	最適	個性化
エ	工夫	適正化	キャリア形成	最高	個性化
オ	選択	適正化	キャリア形成	最適	適正化

※一般教養の出題は除く

2 次の各文は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）からの抜粋である。空欄（①）～（⑤）に当てはまる語句を正しく組み合わせているものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

（現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力と教育課程）

○ このように、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力としては、以下のよう
なものと考えられる。

- ・健康・安全・（①）に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・（②）を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、（③）を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し（④）等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性等の中で（⑤）な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力

	①	②	③	④	⑤
ア	保健	独自の発想	伝統や文化	産業発展	持続可能
イ	食	独自の発想	伝統や文化	産業発展	安心・安全
ウ	保健	独自の発想	基本的人権	地域創生	持続可能
エ	食	新たな価値	基本的人権	地域創生	安心・安全
オ	食	新たな価値	伝統や文化	地域創生	持続可能

※一般教養の出題は除く

3 次の A～E のうち、内発的動機づけによる学習をしているのはどれか。下のア～オから 1 つ選びなさい。

A…テストで 90 点以上とるとお小遣いをもらえることになったので猛勉強している。

B…全教科で良い点数を取りたいので毎日時間を決めて学習に取り組んでいる。

C…勉強しないと不安になるので、先生に質問を行って教えてもらいながら学習することが多い。

D…学習は嫌いだが、親にうるさく言われるので勉強している。

E…英語に関心を持っていて進んで学習をしているが、テストのための勉強は嫌いである。

ア A イ B ウ C エ D オ E

4 「子供の貧困対策に関する大綱」(令和元年 11 月)の内容として適当でないものはどれか、次のア～オから 1 つ選びなさい。

ア 学校を地域に開かれたプラットフォームと位置付けて、スクールソーシャルワーカーが機能する体制づくりを進める。

イ 行政、学校、保健福祉等の機関が率先して、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行う。

ウ 令和元年 10 月から開始した幼児教育・保育の無償化を着実に実施する。

エ 特別支援教育について、特別支援教育就学奨励費等を通じて、障害のある児童生徒等への支援の充実を図る。

オ 外国人児童生徒等について、教育の機会が適切に確保され、高等学校や専門学校・大学等への進学、就職が円滑に実現できる環境を整備する。

※一般教養の出題は除く

5 次の文章は、学習指導要領に示された道德教育の目標について、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に共通した部分である。空欄（①）～（④）に入る語句を正しく組み合わせているものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

（①）した人間として（②）と共によりよく（③）ための基盤となる（④）を目標とすること。

	①	②	③	④
ア	自律	他者	生活する	道德的行為を行うこと
イ	自立	他者	生きる	道德性を養うこと
ウ	自立	自然	生活する	道德的行為を行うこと
エ	自立	他者	生活する	道德性を養うこと
オ	自律	自然	生きる	道德的行為を行うこと

※一般教養の出題は除く

6 次の①～⑤の文は、「京都府いじめ防止基本方針」（平成30年4月改定）の内容について述べたものである。内容が正しければ○、間違っていれば×とすると、○×を正しく組み合わせているものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

- ① いじめの未然防止の取組として、教職員が自主的にいじめの問題について考え、意識すること等のいじめの防止に資する活動に取り組むことが何より重要である。
- ② いじめが「解消している：状態とは、被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）が止んでいる状態である。
- ③ いじめの早期発見のために、学校は、日頃からの児童生徒との信頼関係の構築等に努め、日常的に児童生徒が示す変化や危険信号を見逃さないよう見守るとともに、その上立って定期的なアンケート調査や聴き取り調査、教育相談等を実施し、いじめの実態把握に努め、いじめが深刻化することのないよう適切に対処しなければならない。
- ④ いじめを発見し、又は相談を受けた場合には、学校の特定の教職員が、いじめに係る情報を抱え込むことなく、速やかに、いじめ対策組織に対し当該いじめに係る情報を報告し、学校の組織的な対応につなげなければならない。
- ⑤ いじめについては、その被害者に対する対応及び加害者に対する指導だけでなく、いじめを傍観していた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせ、たとはいじめを止められなくても、誰かに知らせる勇気を持つように指導する。

	①	②	③	④	⑤
ア	×	×	○	○	○
イ	○	○	×	×	×
ウ	○	×	×	○	○
エ	×	○	×	×	○
オ	○	×	○	×	○

※一般教養の出題は除く

7 次のA～Eの文章は、文部科学省の「生徒指導提要」(平成22年3月文部科学省)の「第5章 教育相談」にある、学校との連携が期待される関係者・関係機関の説明である。それぞれの文章が説明する関係者・関係機関の組み合わせとして、正しいものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

- A 非行少年・不良行為少年の発見や補導、要保護少年の発見や保護・通告等を業務とする。非行防止、犯罪等の被害からの保護、少年の健全育成に関する相談に、少年補導職員や少年担当警察官が面接や電話で対応する。
- B 不良行為をなした児童、又はなすおそれのある児童だけでなく、家庭環境その他の環境上の理由により生活の指導を要する児童に対し、個々の状況に応じた支援を行う。
- C 児童生徒の臨床心理に関して専門的な知識・経験を有し、不登校を始めとする児童生徒の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応等のために、児童生徒の悩みや不安を受け止めて相談に当たり、関係機関と連携して必要な支援をする。
- D 社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する。
- E 児童虐待の通告先であり、児童福祉法によって、児童(18歳未満)についての諸問題について相談を受け、問題の本質、周囲の状況などを的確に把握し最も適切な処遇方針を立て、児童の福祉を図っている。

	A	B	C	D	E
ア	少年サポートセンター	児童自立支援施設	スクールソーシャルワーカー	スクールカウンセラー	児童相談所
イ	地域支援センター	保健福祉センター	スクールカウンセラー	スクールソーシャルワーカー	民生委員
ウ	スクールサポートセンター	保健福祉センター	スクールカウンセラー	スクールソーシャルワーカー	民生委員
エ	スクールサポートセンター	児童自立支援施設	スクールソーシャルワーカー	スクールカウンセラー	民生委員
オ	少年サポートセンター	児童自立支援施設	スクールカウンセラー	スクールソーシャルワーカー	児童相談所

※一般教養の出題は除く

8 次の文章中の空欄（①）～（④）に当てはまる語句を正しく組み合わせているものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

- （①）憲章第1条の目的及び任務では、「この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。」とあり、（①）スクールは、この理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校である。
- （②）は、国際教育到達度評価学会（IEA）が、児童生徒の算数・数学、理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童生徒の教育上の諸要因との関係を明らかにするため、1995年から4年ごとに実施している調査である。2019年調査で、日本は小学校・中学校いずれも、算数・数学、理科ともに、引き続き高い水準を維持している。質問紙調査については、小学校・中学校いずれも、算数・数学、理科の「勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合が増加している。
- ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030は、（③）の Future of Education and Skills 2030 プロジェクトの成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みである。教育の幅広い目標を支えるとともに、私たちの望む未来（Future We Want）、つまり個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性を示すものである。
- （④）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的とし、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいる。PYP（Primary Years Programme）は3歳から12歳を対象に、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム、MYP（Middle Years Programme）は11歳から16歳を対象に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラムである。DP（Diploma Programme）は16歳から19歳を対象に、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を取めると、国際的に認められる大学入学資格（（④）資格）が取得可能である。

※一般教養の出題は除く

	①	②	③	④
ア	ユニセフ	PISA	ASEM	ケンブリッジ大学国際教育
イ	ユニセフ	TIMSS	OECD	国際バカロレア
ウ	ユネスコ	TIMSS	ASEM	国際バカロレア
エ	ユネスコ	PISA	ASEM	ケンブリッジ大学国際教育
オ	ユネスコ	TIMSS	OECD	国際バカロレア

9 次の①～④の文は、特別支援教育の現状について述べたものである。内容が誤っているものの組み合わせとして正しいものはどれか、下のア～オから1つ選びなさい。

- ① 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」(平成24年文部科学省)によれば、公立の小・中学校の10%の児童生徒が発達障害の可能性があるとされている。
- ② 特別支援教育では、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒の教育的ニーズにも対応することが求められている。
- ③ 通級による指導は、小学校、中学校において始まったが、今では高等学校においても実施できるとされている。
- ④ 就学先の決定の仕組みについては、就学基準に該当する障害のある子どもは特別支援学校に原則就学することが適当であるとされている。

ア ①・③ イ ①・④ ウ ②・③ エ ②・④ オ ①・③・④

※一般教養の出題は除く

教職教養 正答表

問題番号	正答
1	ウ
2	オ
3	オ
4	イ
5	イ
6	ア
7	オ
8	オ
9	イ